理科通信

担当者　第３学年理科担当　永谷　伸二
発行日　平成２８年８月９日（火）
佐世保市立早岐中学校　【第２号】

今年は「ペルセウス座流星群」を観察するチャンスです!!

ペルセウス座流星群は毎年８月１２日、１３日頃を中心に活動し、とても観察しやすい流星群です。 毎年、ほぼ確実に、たくさんの流星が出現します。１月の「しぶんぎ座流星群」、１２月の「ふたご座流星群」とともに「三大流星群」と呼ばれています。

活動が極大（流星群自体の活動が最も活発になること）の頃に夜空の暗い場所で観察すれば、最も多いときで例年４０個以上の流星を見ることができます。また、冬に観察できる「しぶんぎ座流星群」と「ふたご座流星群」に比べて、寒さ対策の必要がありません。

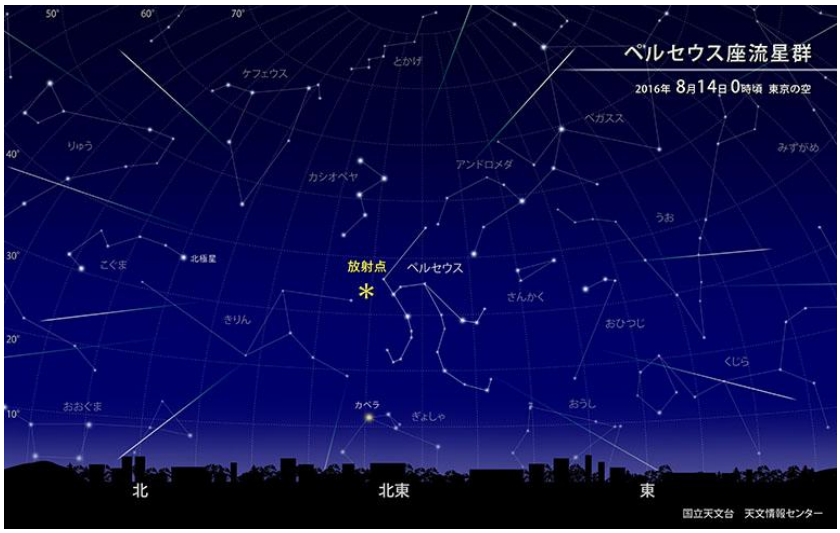
さらに、今年のペルセウス座流星群は、下記のように、大変よい条件で観察ができます。

① 月明かりの影響がない！

８月１１日が上弦の月であるため、夜半頃に月が沈みます。その後は、月明かりの影響がない暗い空で観察ができ、小さな流星まで見ることができます。

② 極大（流星群自体の活動が最も活発になること）なのがちょうど夜の10時前後！

極大が日本時間の８月１２日夜１０時頃と予想されており、日本ではちょうど流星を観察しやすい時間帯となります。



【ペルセウス座流星群を観察するコツ】

１　日時

①　８月７日頃～１５日頃まで、普段より多くの流星を見ることができそうです。
（ただし、出現する流星の数は、極大から日が離れるほど少なくなります。）

②　８月１２日の夜半から１３日未明にかけて最も多くの流星が見られそうです。

③　１１日の夜半から１２日未明にかけてと、１３日の夜半から１４日にかけても多くの流星が出現すると考えられます。

２　方角

①　上図のように、輻射点（または放射点）は北東にあるペルセウス座です。この点を中心に流星群が四方に出現します。

②　しかしながら、北東に障害物などがある場合は、どの方角でも観察できます。

３　時間帯と月の影響

①　夜の１０時以降がよいのですが、９時を過ぎるころから見える可能性があります。ただし、月明かりに要注意です。

②　月が沈んでから観察すると小さな流星まで観察することができます。１１日が上弦（半月）、１８日が満月です。観察に最も適している１１～１３日の夜には、日の入り後に月は空にあり、夜半頃になって沈みます。

③　月明かりがあるときに観察する場合には、月が視野に入らないようにしましょう。

４　観察の注意点

①　夜の天体観望は保護者同伴で保護者責任のもとにお願いします。

②　明るいうちに、危険な場所がないか、トイレの場所、方角を確認しておいてください。

③　夜間の防寒・夜露対策、虫よけ対策を十分に行ってください。

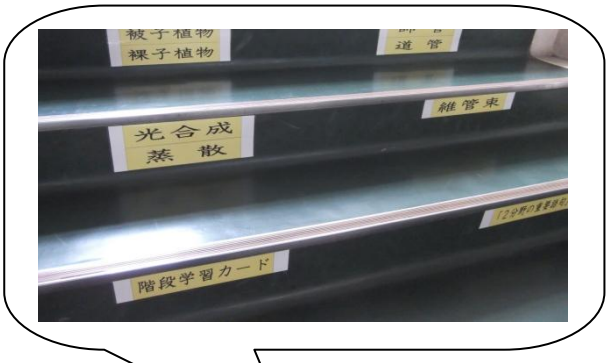
裏面に続きます…

3年B組の「グリーンカーテン」です！

エネルギー教育の一環として３年Ｂ組が「グリーンカーテンづくり」に取り組んでいます。
時期が少し遅くなりましたが、苗植えを７月１３日（水）に行いました。下の右側の写真は８月８日（月）のもので、あっという間に成長しました。
今後、グリーンカーテンがある場所とない場所で室内の温度を比較していく予定です。

「学力向上」に向けた理科における取組をご紹介します！

本校では、生徒の学力向上に向けて下記のような取組を行っています。

研究主題	『生き生きと意欲的に学び合う生徒を育成する授業の創造 ～協同的な学びの中で、他者との関わりを重視し、より質の高い学びを追究する～』
具体的取組	①　協同的な学び（ペアやグループ学習の充実） ②　わかる授業を目指した研究授業と授業研究 ③　ｉチェックやアセス等による生徒集団の理解 ④　個別支援の充実 ⑤　校内や教室の環境整備 ⑥　教職員のスキルアップのための全体研修の実施 （ICT 活用や特別支援教育等について）

理科においては、上記に加えて「TT による少人数指導」「実験・観察の充実」「ICT 活用による説明や指示の充実」などにも努力しています。また、下の写真のように理科室前の掲示板や階段も活用しています。